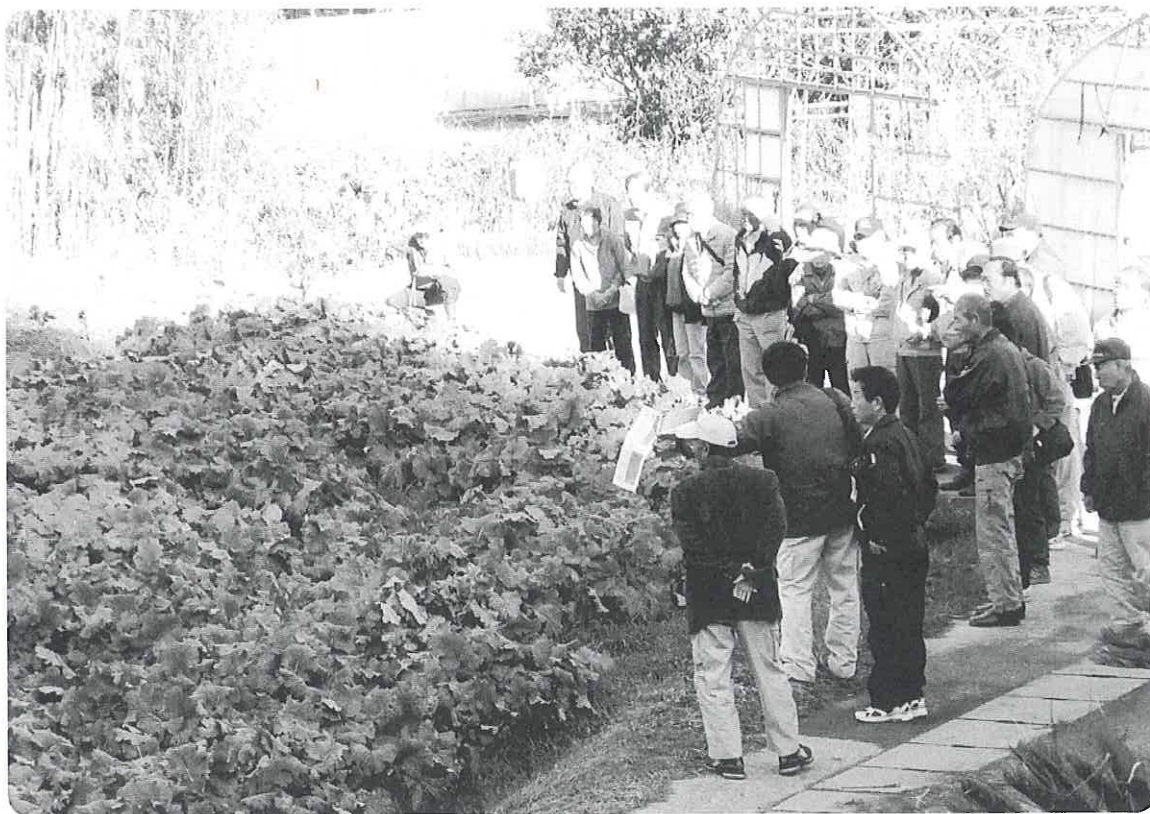


2014年6月発行

安房普及だより

〒294-0045 千葉県館山市北条402-1 TEL:0470-22-8132 FAX:0470-22-0097
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-awa/index.html>
発行:安房農業事務所改良普及課・安房農林業振興協議会普及事業部会



根こぶ病対策現地検討会の様子

食用ナバナ根こぶ病 軽減対策への取組

安房地域は食用なばなの日本一の生産量を誇る産地です。しかし、歴史の古い産地である一方、連作による障害として根こぶ病の発生が問題となつていきます。

そこで、当事務所では、生産者、安房農業協同組合、試験研究機関等と連携して、地域ごとの発病程度の調査や、様々な防除対策の試験などに取り組んでいます。

取組の結果から、根こぶ病に対しては、抵抗性品種の利用、薬剤や資材による防除、播種時期を遅らせる等の対策の中から、ほ場の発病程度に応じた対策をする必要があることがわかってきました。

今後は、より効果的な対策を明らかにするために、防除対策の組合せによる防除効果の確認などを行っていきます。

カリフラワーの栽培方法と在来種の紹介

カリフラワーは安房地域で古くから作られており、気候風土に合った野菜です。栽培方法を御紹介いたします。

①育苗

7月中旬～8月中旬には種、本葉2～3枚で移植、本葉8～10枚で定植します。寒冷紗で遮光し病害虫を防ぎます。育苗期間は50～60日です。

②定植準備

10aあたり、牛糞たい肥2t、基肥の緩効性肥料を窒素成分で18kg、根こぶ病対策として苦土石灰100kg施用します。

③定植

9月中旬～下旬に株間45cm、畝間80cmの1条植えで定植します。定植後数日は十分にかん水を行いましょ。

④定植後の管理

定植後15日後に土寄せを行い、以降1ヶ月おきに合計2回の追肥（化学肥料を窒素成

分で約10kg）と土寄せを行います。花蕾が見え始めたら、

日焼けと凍害防止のため、外葉を折り曲げて遮光します。

⑤収穫

1月～4月に花蕾が緻密なときに収穫します。

★安房地域には古くから受け継がれた在来品種もあります。「マーチ村田」は、3月に収穫を迎え、F1品種に比べて花蕾は少し黄色味がかっており、茎の太いがっしりとした株が特徴です。



カリフラワー在来種「マーチ村田」

花き栽培における省力土壌消毒法

人体への影響や労力負担が少ない土壌消毒法について紹介します。

①クロピクフロアによる消毒

クロルピクリンくん蒸剤による化学消毒です。基肥施肥、畝立て後、畝に灌水チューブを引きます。ほ場をビニールで被覆し、ガスが逃げないようにしたら準備完了です。液肥混入機を使ってクロピクフロアを水と一緒にほ場へ流します。消毒後はガス抜きが不要ですが、灌水機を消毒後にも使用する場合は水で洗浄する必要があります。被覆期間は気温にもよりますが、概ね2週間で、コストは7万円/10a程度になります。

②低濃度エタノール還元消毒

微生物の働きを活性化させることで土壌を還元状態にし

て消毒するため、地温が高い7月下旬～9月に実施すると効果が得られます。フスマを利用した土壌還元消毒と同等以上の効果が得られます。

栽培終了後、作物を除去し、液肥混入機と散水チューブを使い、水にエタノール濃度が0.25%以上になるよう混合し、畝に散水します。散水量は畝1平方メートル当たり150Lです。散水後にビニールでほ場全体を被覆し、3～4週間で消毒が終わります。砂質よりも粘土質土壌の方が効果が得やすく、エタノール濃度が高いほど効果も高まります。エタノールを0.25%濃度で使用した場合5万円/10a程度のコストがかかります。

御使用の際は使用上の注意事項をよく読み、安全使用に心がけて下さい。

中晩生柑橘類の栽培について

近年、安房地域での中晩生柑橘類の栽培面積が増加しています。しかし、通常の温州ミカンとは栽培方法等が異なる点がありますので、注意点を御紹介します。

①定植場所等

中晩生柑橘類は、全体的に寒さに弱いです。そのため、1月に収穫可能な品種以外は施設栽培が好ましいです。また、1月に収穫可能な品種も、寒さの滞らない場所に定植しましょう。定植時期は3月下旬ごろで、食味の良い果実を収穫するために、水はけがよく、日当たりのよい場所へ定植しましょう。

定植時には、根の伸びを促すため、有機物を施用しましょう。また、定植後の小まめな灌水等を実施し、樹勢の維持に努めてください。更に、施肥に関しても、2ヶ月に一

回程度、少量の施肥を行いましょう。

②栽培管理

開花時期は温州ミカンと変わらないものの、収穫時期が1月以降の品種が多く、着果負担が大きいです。また、葉の大きさは温州ミカンよりも小さいため、収穫時期の葉果比を100程度とするのが理想的です。そのため、摘果は7月中に、葉果比80ぐらいを目安に実施してください。

また、果実の減酸を促すため、7月から9月にかけて積極的に灌水を行いましょう。

③主要病害虫

・かいよう病

温州ミカンと異なり、抵抗性が弱く、かいよう病にかかりやすい性質があります。かきよう病は台風等の強風により発生した傷口から感染するため、強風の発生前に銅剤による予防が重要となります。

・黒点病

温州ミカンと同様、梅雨時

及び秋雨時に感染が拡大します。そのため、温州ミカンと同様の防除が必要です。

・鳥害

年明け以降、ヒヨドリ被害が懸念されます。そのため、10月下旬から11月上旬にかけて、防寒と防鳥を目的として袋かけを実施しましょう。

・ハダニ類（施設栽培）

施設栽培では乾燥によるハダニ類の発生が問題となります。そのため、定期的な殺ダニ剤の散布を実施しましょう。

レモンの栽培について

中晩生柑橘類と同様にレモン栽培も増加しています。

①定植等

定植は中晩生柑橘類と同様に行います。また、耐寒性は温州ミカンよりも弱いため、寒さが滞らない場所へ定植しましょう。

更に、レモンは徒長枝が伸長しやすく、1年で2m近く

伸びることもあります。樹高も5m程度と高くなりやすく風により性質があります。そのため、防風林や防風網による防風対策は必須となります。

②施肥

レモンは通常5月、7月、10月、1月の年4回開花しますが、露地栽培では1月は寒いいため、開花しません。開花時に栄養を消費するため、小まめな施肥を行ってください。

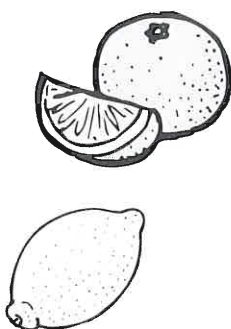
③主要病害虫

・かいよう病

中晩生柑橘類と同様、抵抗性が弱いため、定期的な防除が必要となります。

・そうか病

温州ミカンと同様、4月から6月にかけての時期が重点防除時期となります。



若手レタス生産者グループ 「神戸レタス育成会」

館山市神戸地域でレタスを栽培する「館山市清浄そ菜組合」では、平成25年7月の総会で、若手生産者7名で構成される「神戸レタス育成会」が設立されました。

育成会は、将来の産地を担う農業者を育成し、産地を活性化させることを目的に様々な活動を実践してきました。昨年度の活動について御紹介いたします。

①会員の知識・技術の習得

競合産地である静岡県や出荷している東京第一青果を視察して、レタスの省力化技術や流通の情勢を学びました。また、学んだことを組合に報告して情報を共有しました。

②知名度アップと地産地消の推進

館山市内で開催された販売会に参加し、消費者との交流を図りました。また、通常は

全量市場出荷しているレタスを市場の理解を得て、一部市内スーパーでの販売されるようになりました。

③食育活動の推進

講師として近隣の小中学校でレタス栽培の講習を行いました。小中学生へ公募して、新しい神戸レタスのキャッチフレーズ「かぞくみん」などで「ジタブル」が決まりました。

これからも「神戸レタス育成会」の活動を支援しながら、地域農業活性化の原動力となることを期待しています。



里見さくら祭りの販売会に参加

食用ナバナ新規栽培者等を対象に研修会を開催します

定年帰農者や栽培経験の短い方、将来ナバナ栽培を行いたい方等を対象として研修会を開催します。

管内の実践者等を講師に、ほ場検討会や出荷調製方法等についての実習も行います。興味のある方は、担当(橋本)まで御連絡ください。

集まれ！未来の起業家 「加工・起業セミナー開催」

我が家の農産物を加工して販売を目指したい方、一緒に勉強しませんか。

加工品の販売を開始するために必要な基礎知識や、加工のコツを、管内で活躍する起業家を講師に迎え、研修会を開催します。

農産物加工による起業を考えている方を募集しています。担当(上堀内)までお問い合わせください。

改良普及課職員紹介

改良普及課長 小林 寛子
主席普及指導員 岩瀬 裕子
【館山グループ】

山田 博(グループリーダー)
加藤 美紀(担当 花き・生活)
吉田 明広(担当 果樹・畜産)
小泉 聡(担当 野菜)
清水ゆかり(担当 作物)
林 聖麗(担当 花き)

【鴨川グループ】

石川 浩司(グループリーダー)
齋藤 秀一(担当 作物・果樹)
上堀内里紗(担当 野菜・生活)
白井 徳一(担当 野菜・花き)
中原 祐樹(担当 畜産)

【南房総・鋸南グループ】

渡邊 照和(グループリーダー)
金子 貴一(担当 畜産)
田中 千華(担当 花き)
影山 浩司(担当 果樹・生活)
橋本 威(担当 野菜)
白井 温(担当 花き)
吉田 伊織(担当 野菜)
小宮 良美(担当 作物)
竹内真紗子(担当 花き)